

## 富山県成長戦略会議

### 令和5年度 第2回県庁オープン化戦略プロジェクトチーム 議事要旨

1. 開催日時：令和5年8月29日（火）15：00～17：00
2. 開催場所：富山県庁4階大会議室、オンライン
3. 出席者（委員は五十音順）

区分	役職	氏名	出欠	備考
成長戦略 会議委員	青山社中株式会社筆頭代表CEO	朝比奈 一郎	出席 (オンライン)	座長
委員	つづく株式会社CEO	井領 明広	出席 (オンライン)	
	株式会社ホルグ代表取締役	加藤 年紀	出席 (オンライン)	
	Code for Toyama City代表	富成 敬之	出席 (オンライン)	
	富山市スマートシティ推進課課長代理	中村 圭勇	出席 (オンライン)	
	株式会社POTETO Media代表取締役社長	古井 康介	出席 (オンライン)	
	Glocal Government Relationz株式会社代表取締役	吉田 雄人	欠席	
オブザー バー	知事政策局成長戦略室 スタートアップ創業支援課 主任	米山ちひろ	出席 (リアル)	
	人事委員会事務局 企画・任用課 主任	水野 達郎	出席 (リアル)	

#### 4. 内容

##### (1) 事務局

- ・「今後のスケジュール」、「令和5年度成長戦略アクションプランの進捗」、「令和6年度に向けた重点的検討課題」等について配布資料に基づき説明。

##### (2) 委員等の主な意見

###### 【朝比奈座長】

- ・色んな項目についてKPIをできるだけ設定する方が良い。決まっているKPIについては、令和8年度が目標年度になっているが、それはそれで粛々とやって行けば良いが、本当に県庁のオープン化を進めるうえで、こういったことをやるべきだというゴールがあり、それに紐づくKPIを可能な限り定めれば良いのではないかと。小さな弾を多種多様に積み上げて、それぞれにできればKPIを付けて、その積み上げの中でKGIをクリアにして、まとめていくという方向で行ければ良い。

### 【井領委員】

- ・チャレンジ意欲ある人を生み出すためには、第1にチャレンジする目標、第2に労働・法務的なルール、第3に周囲の理解、第4にインセンティブの4つが必要。第4のインセンティブ、意義、報酬設定がもう一声必要ではないか。
- ・県庁のような大きな組織のDXは難しい。県の場合は予算等の都合もあるので、インセンティブ設計だったり庁内複業制度だったりを利用しながら、アメーバ式で、ボトムアップでやるのが適当。スモールスタートで、なるべくボトムに近いKPI（手数の数、減らしたペーパー枚数など）をしっかりと実行していく必要がある。

### 【加藤委員】

- ・内部の風土を変えていった方が効果や長期的な持続力が大きい。KPIは見直しても良いのではないか。チャレンジする風土を作るため、それに紐づく色々なアクションでKPIを取っていくことが必要ではないか。
- ・会議資料で個別案件について県が行ったことの記載があるが各部署が優先順位や効果をどのように考えていて、どのような順番、ストーリーで進めているのか分かりにくい。委員が指摘しても内部検討した結果、やらないほうが良いので優先順位を下げたものがあったも良いと思う。最終的に今決めているKPIに紐づいているようなグランドデザインが可視化できると良い。
- ・生成AIを試しながら触っていくことが大事。生成AIは、まだ正確性は高くないが大量の作業を行うことは得意。社内QAや議会対応など地方自治体だから使えるような面がある。

### 【富成委員】

- ・県民目線に立ったスマート県庁の推進と戦略的・組織的な広報について、住民参画の視点が抜け落ちている。住民参画とオープンデータは密接であり、ここについて、細かい施策でも良いので盛り込めればと思っている。
- ・県の施策を理解するためには、オープンデータの推進が必要。オープンデータを活用するだけでなく、住民に県の施策を理解していただくための材料としてデータをオープンにするという感覚が県には必要。
- ・県政世論調査やウェルビーイング関係アンケートなどの基本的な調査は最初から公開前提でやっていく、匿名化と使用目的の明示、汎用的な使用を明示しながら、匿名化を前

提に公開前提で進めていけないか。施策の裏付けのデータというのを積極的に紐づけて出していくことで、住民参画が可能になる。

#### 【中村委員】

- ・各取組みがKPIと因果関係があるかどうかのチェックが重要。また、挑戦したい職員が周囲の理解を得られること、挑戦する職員を組織としてサポート・応援するという姿勢は非常に良いのではないかと。一方で、リーダーだけ育てても活性化していかない。メンターやフォロワーも一緒に育てていかないと組織の活性化は難しい。次年度に向けた具体的な検討が必要。
- ・県民目線に立ったスマート県庁については、県民のために具体的にどうするのかここに書いてある内容からは読み取れない。デジタル技術やデータの活用は手段にすぎず、目的が何なのかが大事である。目的は県民のウェルビーイング向上だと思うので、その実現にスマート県庁がどうつながっていくのかという道筋を示すことが重要。

#### 【古井委員】

- ・広報分野でKPIとして入れて欲しいのは、広報施策を入れた後と前でどの数字がどれくらい上がったのか、例えば、ホームページやLINEでどのくらいのユーザー数を多くもたらしたのか、ユーザーの満足度や目的とした数字が上がっているのかなどをしっかりとフォローアップして欲しい。
- ・自分も県のLINEをチェックしてみたが、例えば就学・進学支援を選択すると施策名が漢字フルネームでずらっと並んでいるだけで、中身をイメージすることが難しかった。見た目は綺麗だが、目的としたアクセスや満足度が増えたかの検証が必要。
- ・また、子育て専門の県LINEアカウントもあるが、親になった自分としては、どこを押したらいいのかわからなかった。ライフステージ毎に整理するなど工夫が必要。